



Sendai Nagamachi 仙台長町  
Future Co-Creation Center 未来共創センター

## Social Innovation

F&Pコ・ソーシングサービスをより進化させ  
人々の生活を支え、豊かな社会作りに貢献していきたい

&

## Fun Innovation

お客様の企業価値を上げるイノベーションこそが楽しい

# F&P

フクダ・アンド・パートナーズ

### 本社

〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町7-2 ペンてるビル8F(総合受付)  
Tel : 03-5623-5788 Fax : 03-5623-9550

### 東日本事業部

〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町1-9-1 仙台トラストタワー24F  
Tel : 022-215-9265(代表) Fax : 022-395-8458  
担当：加藤・佐野

### 仙台長町未来共創センター・オフィス

〒982-0003 宮城県仙台市太白区郡山6-7-21 仙台長町未来共創センター5F  
Tel: 022-304-5350 Fax: 022-304-5351  
担当：加藤・阿部・佐藤



**SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS**

株式会社フクダ・アンド・パートナーズは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。





# 平常時と非常時で機能が変わる 共創と共生のリバーシブル・ビル®

**「平常時」**  
人を育てる  
(共創)

**「非常時」**  
人を守る  
(共生)

1. 入居テナントとともに SDGs と社会課題解決に貢献できる企業向けオフィス
2. 高速道路、鉄道、空港などの交通インフラが近い、広域営業拠点としてのオフィス
3. 入居企業同士と産・官・学、医療地域が共創し、価値を生みだすオフィス
4. 企業防災、備蓄物流、BCPの情報発信拠点(AZ-COM BCPギャラリー)、セミナー等に活用可能な貸し会議室
5. 施設の電力を CO2 ゼロの再エネ 100% 電力で調達
6. FCV(水素自動車)及びEV(電気自動車)対応のV2X(\*)システムを導入し、レジリエンスと脱炭素化の両立を実現  
\*V2X(Vehicle to X): 車と歩行者やインフラ、ネットワーク等との接続や相互連携を総称する技術

1. 72 時間稼働の非常用発電機に加え、太陽光発電+蓄電池+EV(電気自動車)を導入し、電力を 3 次的にバックアップする仕組みを構築
2. 2Fギャラリー・セミナールームを発災時の一時滞在場所として開設し、株式会社丸和運輸機関とともに帰宅困難者 80 名を受け入れる。地域分散型時代に対応
3. F&P 社員の非常食用糧等を備蓄(200人×6日分)。帰宅困難者受け入れの際には無償提供
4. F&PのBCP: 東京首都圏大災害時の経営執行業務機能移転先として仙台を選定
5. 株式会社丸和運輸機関との連携により、災害支援物資等の「ものを運ぶ、足のある備蓄」を実現
6. 電気自動車やV2Xの活用により広域防災連携が可能となり、更に防災拠点として国土強靱化に寄与する  
\*東北大学災害科学国際研究所丸谷教授と企業防災・地域防災・BCPにおける共同研究を実施

## 仙台長町未来共創センター

株式会社フクダ・アンド・パートナーズが事業主となり、仙台市長町副都心に、共創と共生をテーマに平時と非常時で機能が変わるリバーシブルビルを開発しました。仙台長町未来共創センターは、いつの時も地域を照らし続けるサステナブルな施設です。

**平常時「共創」:** 産官学連携で共創し続けるオフィスビル

**非常時「共生」:** 人と地域を守る地域密着の防災施設

東日本大震災で72施設の物流センターや店舗の復旧支援に取り組んだ経験を通して、災害時に電気が消えないことの重要性や、「物を運ぶ」機能がライフラインとなること、人と人が助け合うことの大切さを学びました。その想いや経験が、産官学連携(仙台市・丸和運輸機関他テナント企業・東北大学災害科学国際研究所)で共創し、地域を守り続けるオフィスビルを開発しました。

今後も「持続可能な社会(SDGs)」の実現に寄与するための取り組みを続けてまいります。

## F&P グループのサステナブルな取り組み



## 当施設の第三者評価(ESG 評価)及び協定

「はばたく中小企業・小規模事業者300社」 経済産業省中小企業庁	「BCAO アワード 2022」 企業防災賞 事業継続推進機構	「国土強靱化・民間の取組事例」選定 内閣官房国土強靱化推進室
-------------------------------------	---------------------------------------	-----------------------------------

■ ふるさと融資(仙台市・ふるさと財団)の活用  
地域振興につながる民間事業で新たな雇用が見込まれる事業の民間投資支援

■ 補助金  
宮城県: みやぎ二酸化炭素排出削減支援事業補助金  
仙台市: 仙台市民間防災拠点施設再生可能エネルギー等導入補助制度

■ 仙台長町 FC を活用した企業防災等の推進に関する協定書  
仙台市+東北大学災害科学国際研究所+(株)丸和運輸機関+F&P にて締結

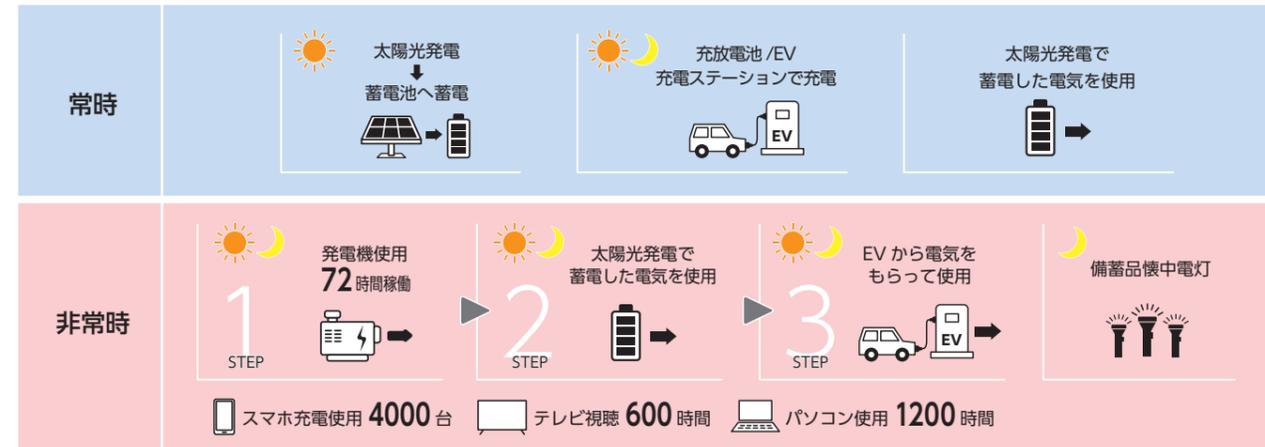




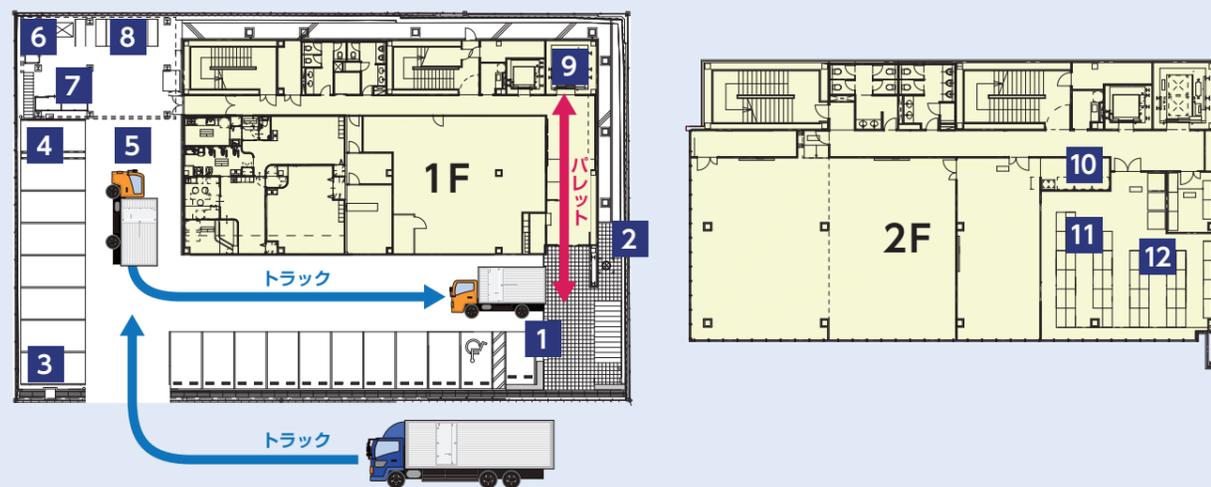
## 72時間以上電気が消えない施設

### 電気の3次バックアップにより、災害時に人を守る

仙台長町未来共創センターでは、72時間以上電気が消えない施設を目指し、非常用発電機、太陽光発電+蓄電池、EV充放電システム(V2X)の電気の3次バックアップシステムを導入。停電が発生すると非常用発電機が自動で起動し、72時間稼働します。その後、太陽光発電で蓄電した電気を使用するほか、EV充放電システムにより、電気自動車や水素自動車から電気を施設に送ることもでき、これらにより災害時に人を守る・明かりが消えない施設を実現しています。



## 非常時の施設機能



### 物資運搬動線の工夫

- (1) 10t車が入り可能な動線を確保
- (2) エントランスから人荷用エレベーターまで、1.1m x 1.1mのパレットが往来可能
- (3) 重量物の運搬に耐えられる強度の床タイルを採用
- (4) 悪天候でも物資が濡れないようエントランスに庇を設置

地域の住民を守るため、非常時には帰宅困難者一時滞在場所(約80人分)の設備機器や備品を確保

**R5F**

**F&P オフィス**  
東京首都圏発災時の本社機能移転・災害対策本部。停電時にも光が入りやすいガラス張りのデザイン

**太陽光パネル**  
最大30Kwhの発電能力。日中建物使用電力の25%を賄う。

**4F 3F**

電気以外の備え

帰宅困難者一時受け入れ施設

テナント/帰宅困難者用 備蓄食糧 6日分

帰宅困難者受け入れ人数 約80名分

2F AZ-COM 丸和BCPギャラリー・セミナールームは、非常時には帰宅困難者一時滞在場所に機能転換。帰宅困難者最大80名を受け入れる。

**2F**

**10 自動販売機**  
災害発生時には自動販売機の飲料を無償提供。

**11 備蓄品**  
F&PのBCPとして200名X6日分を(株)丸和運輸機関が保管管理。非常時は帰宅困難者に提供。

**12 ほぼ紙トイレ**  
紙製の備蓄型個室トイレ。電気上下水道不要、20分で組み立て可能。

**9 人荷用エレベーター**  
1.1m x 1.1mのパレット2枚積み込み、ハンドリフターでの運搬が可能

**1F**

**5 インタンク**  
非常用発電機用の重油 5000Lを保管。

**6 受水槽**  
容量 6700L。非常時の生活用水となる。

**7 蓄電池**  
太陽光で発電した電気を蓄電、電気自動車のリチウムイオン電池を再利用。

**8 非常用発電機**  
停電時72時間連続稼働、電気容量 300kVA。

**1 かまどベンチ**  
通常時はベンチ、災害時には炊き出し用かまどに変身。

**2 防災マンホール**  
マンホールの上に簡易便座を設け、トイレを迅速に確保。

**3 ソーラー街路灯**  
太陽光エネルギーで稼働、電源から携帯電話の充電可能。

**4 EV充放電システム(V2X)**  
非常時には動く蓄電池と発電機として活用(広域災害連携)